

# 中津高校について

- ① 中津高校の歴史
- ② 中津高校定時制の歴史
- ③ 星しるべの歴史
- ④ 校歌について



# ① 中津高校の歴史について

---

1906年に開校→中津高等女学校として

間家の間空右衛門のおかげ

1948年に男女共学になった





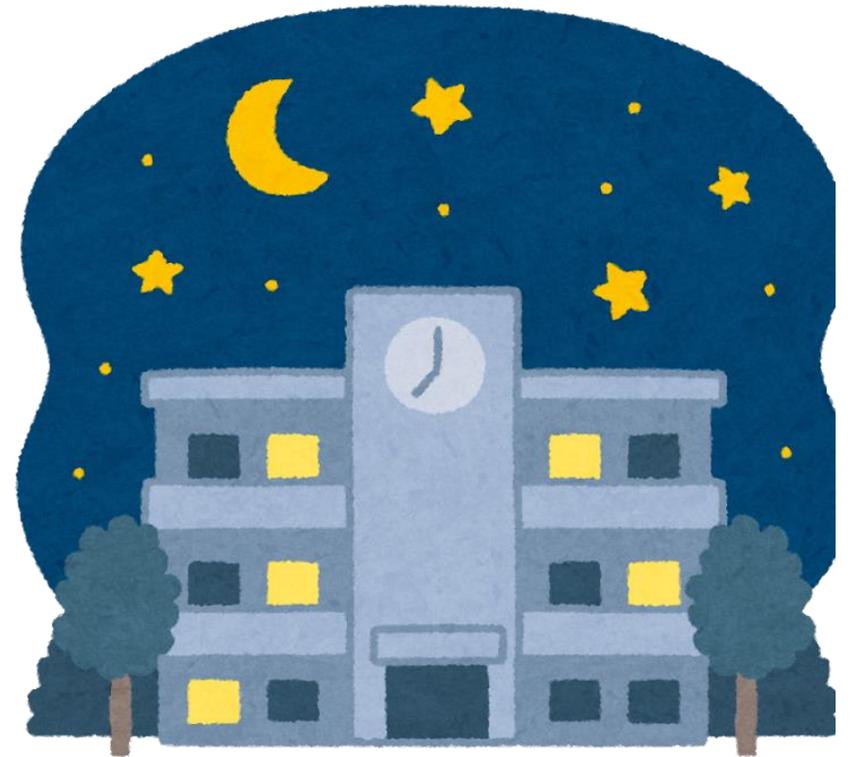
## ② 中津高校定時制の歴史について

---

1948年にGHQの教育改革により設立

中津川以外にも福岡・付知・苗木・加子母に分校ができた

1967年には197人の生徒が卒業





### ③ 星しるべの歴史について

---

1986年に学校通信『星しるべ』発刊

1987年には集大成として文集で作られた

当時の校長先生は、『教師自身も、歩み、記憶等を蘇らせ、自ら勉学に力を注ぐことができ、より確かな歩みができるようになった』と述べた

# 最初の星しるべ

## 星しるべ

No.1  
昭和61年7月19日  
中津高校  
定時制

学校通信発行にあたって  
学校長 桜井 伸美

定時制の学校通信として、今年から「星しるべ」を発行することになりました。

この頃、ヤマモとすると学校のことが家庭や職場に伝わらず、家庭や職場のことに学校がうとい、というようにことがあって、これが生徒指導にかかりマインスになっているとおもう。

学校教育と家庭教育、或は社会教育、これは三輪車などの輪が回らなくても車は進まない。輪が調子よく揃って回転してこそ円滑な前進があると思う。つまり生徒ひとりひとりの進歩があると思う。その意味から、本校創立八十周年の記念すべき年に、PTA・ETA・通信「星しるべ」が叢刊されることは誠に意義深いものがあると思う。

お互いに、それぞれの内部を十分理解することによって子供達の別な一面を十分観察し、それを教育に生かしたい。そんな願いが込められた、これからの時代を荷う生徒のための学校通信「星しるべ」、送り出す。家庭から、職場からもご意見を承りたいと存じて居ります。

## ★ 夏季休暇中の行事予定 及び 課題 ★

- 7月21日(月) 補習授業開始
- 8月 2日(土) } 県生活体験作文発表会
- 3日(日) } (国立美穂青年の家)
- 4日(月) 登校日
- 8日(金) } 全国高等学校定通体育大会
- 10日(日) } 軟式庭球の部 (於 有明テニスの森公園)
- 15日(金) } 全国高等学校陸上競技大会
- 17日(日) } (於 駒沢オリンピック競技場)
- 26日(火) 第2学期始業式

### 課題について...

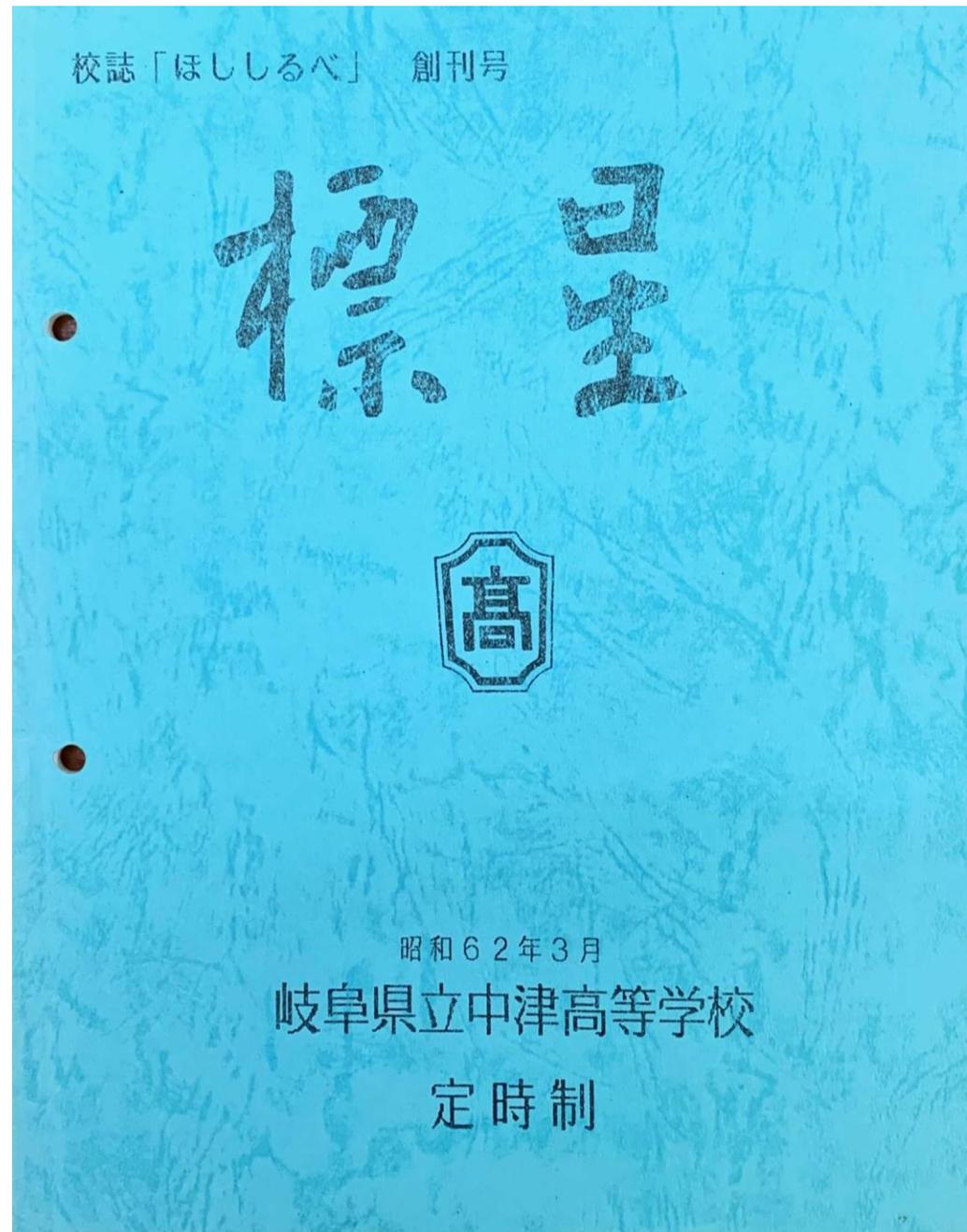
夏季休暇中には、各教科により課題が出さ  
れております。(生徒には別紙を配布済)  
夏休みの後半になって、あわせてよいように  
しーかりと計画して取り組むよう、よろ  
しくお願い致します。

### ★ 1学期の成績について

通知表は10点法で表します。赤1は2・3学期と同様の成績ですと、  
進級できません。また各科目の欠席時数が授業時数の1/3を越すと  
赤(1)と表示します。この場合も欠席オーバーの分を今後解消しない時  
は進級できません。こうした赤1を含めた成績不良者及び欠席の多い生  
徒には夏休みに補習を行う予定です。ほんとに今後、こうしたことになら  
ないよう願っての指導ですが、各面でもよろしく御協力、御指  
導をお願いいたします。

ブルーノスター

# 校誌の星しるべ



# 校誌の星しるべ

## 巻頭言

学校長 桜井伸美

創立80周年が印象に残る昭和61年度は、中津高校の教育の中味にとっても充実した年であった。こうした中で定時制教育が、数少ない生徒とはいえ、何か活気に溢れ、スポーツの面では全国大会出場等、目をみはるものがあった。

こうした動きを何とか克明に留め、来し方、行く末をはっきりさせ、より確かな学校経営に資するために、この度、文集「ほしるべ」が発行されることになった。誠に意義のあることであり、それを契機に教師自身も、歩み、記憶等を蘇らせ、自ら勉学に力をそそぐことができ、より確かな歩みができるようになったのではないかと思う。

私は、働きながら学ぶ、学びながら働く者の人生に於ける意味をしっかりと生徒に把握させるための道標として、これがより有効に活用されることを期待しています。自灯明、法灯明の教えという言葉が仏教の中にありますが、これからの社会は、変化が激しく、その中に大勢に遅れずに行動して行けるためには、何を頼りにして行ったらいいのか……よく問われる言葉です。こんな時には、自分の足元をしっかりと照らしながら、自分で歩く道標、それがこれであってほしいと願っています。この編集にあたられたご苦勞に深甚の謝意を表し、巻頭の言葉と致します。

# 校誌の星しるべ

## 宿泊研修の記録

◎実施期間 …… 昭和61年5月31日、6月1日

◎研修場所 …… 本栖湖青少年スポーツセンター

◎意義・目的

1. 集団生活への適応

全校・グループ等の集団生活の中で、自主的・積極的活動について学ぶとともに、公共心を養う。

2. 協調と融和

大自然の中で、先輩・後輩・友人・先生と語りあい相互の理解・信頼を深める。

3. 規律と連帯の精神の育成。

青年の家での規律正しい集団宿泊生活の中で、上級生・下級生が力を合せて、ひとつのことをやりとげる喜びを感じると同時に、規律・忍耐・協力の精神を培う。

◎行程

第1日目：中津川駅前====焼津魚センター見学====登呂遺跡見学  
9:00 出発 11:30~12:30 13:00~13:30

白糸の滝見学====スポーツセンター  
15:30~16:30 17:30 着

第2日目：スポーツセンター====水穴・風穴見学====中津川駅前  
13:00 出発 13:30~14:30 18:30 着

◎研修内容（於センター）

第1日目夜 生徒会行事（ゲーム等）

第2日目午前 パノラマ台ハイキング

\*\*\*\*\*

今年は遠く富士山の麓本栖湖にある青少年スポーツセンターへの宿泊研修であったが、これだけ遠方へのものは、今年が最初で最後であると思われる。

生徒へのアンケートの結果をまとめてみると、やはり一番印象に残っているのがパノラマ台ハイキングであったようだ。標高1230mのパノラマ台からは、富士の全景、山中湖を除く五湖の全てを眺めることができ、登りのきつさや、途中道を間違えたことなどを忘れさせてくれる程、素晴らしいものであった。

また、バスの中でパンフレットを読んで行ったことには、気分が悪くなったので止めて欲しい、見学前に予備知識が持てよかった等賛否両論であった。バスの中での研修の仕方も来年もっと考えたい。

しかし、全体的にはよかったという意見が多かった宿泊研修であった。

# 最新の星しるべ



第三十五号

星しるべ



岐阜県立

中津高等学校

定時制

# 最新の星しるべ

## 「星しるべ」に寄せて

校長 森井 静子

昨年度末、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、前首相の一声で全ての学校が一斉休校に入りました。幸い卒業式はほぼ例年どおりに実施できましたが、4月入学式・始業式のあと、さらに2か月の休校となりました。課題やNHK高校講座の活用、電話による連絡・相談の日々が続き、皆さんも私たち職員もつらい時期を過ごしました。オンライン授業を開始した時には大変うれしく感じたものの、やはり対面授業、直接対話とは異なり、誰もが「つながり」や「思いやり」の大切さを実感したことと思います。そしてマスク・消毒の徹底、3密を避けて学校が再開され、皆さんの協力のおかげで新型コロナ感染防止対策を継続できています。

さて、このWithコロナと言われる時代に、皆さんは何を感じ、何をしようか。マスクの下の表情は分りにくく気持ちがなかなか伝わりません。学校での活動を通じて、これまで以上に人の話をきちんと聞きしっかりと言葉で自分の気持ちを伝えるということが本当に大事だと分かったのではないかと思います。このようなコロナ禍のため、保護者と一緒に活動する行事や修学旅行は中止を余儀なくされました。しかし、最大行事である旭星祭は感染防止対策を講じながら開催に向け活動し、どの学年も昨年以上に素晴らしい取組・発表をしてくれました。休校を経て仲間とつながり、限られた時間の中で協力しながら一つ一つのものを創り上げた、皆さんのその頑張りを誇りに思います。

これからの社会は予測不可能だと言われていきます。今回の感染症のように新たなウイルスに対応したり、日本国内の働き方が「地方分散型」に変わっていったりするかもしれません。現在、ヨーロッパで始まった「食品ロス」と「食品廃棄」を解決するフードシェアリングサービス(アプリ)が世界中で広がっています。これは、社会の持つ課題を一般家庭、企業、地域が社会全体で解決するよう考え取り組んでいる実例と言えるでしょう。「未来社会を自立的に生き、変化を恐れず、柔軟に対応し、自己の持つ力と他者のそれとを融合してともに発展していくことが求められる」とよく言われます。これからの生きる皆さんには、今後生じる様々な課題を周囲の人たちとともに、想像力を働かせながら、より良く生きられるよう解決し未来を築く姿勢を持ってほしいと思います。

最後に、東日本大震災後にCMで起用された有名な言葉「思いは見えないけれど思いやりは見える」の作詞家、宮澤章二さんの言葉を贈ります。今後の人生における無数の未知なるものとの出会いのため、新しい今日を充実させていきましょう。

新しい今日を 宮澤 章二

消えてしまったものがたくさんある  
これからやって来るものもたくさんある  
消えてしまったものがなつかしいときは  
しばらくうしろを振り向けばよい  
けれど振り向いてばかりいるのは愚かだ  
うしろは見えても前の風景が見えない  
私たちの人生は  
つねに前方にある  
前方にあるからこそ  
人生はつねに新しい  
これからやって来るものは  
たくさんある  
数え切れないほどのものが  
私たちを呼ぶ  
無数の未知なるものとの出会いを求め  
つねに新しい今日を充実させよう

これで発表を終わります